

«議題3»

運用検討WG・情報システムWGの 検討状況について

1. 情報WGの検討状況

情報WGの主な検討事項

情報システム整備計画の策定

- ・情報システム整備の基本方針(患者サービス向上、全体最適、データ利活用、DX、AI、安全性、将来拡張性)
- ・診療データの統合、診療記録の保管方法
- ・構築方針(ネットワーク、サーバ、端末、UPS 等)
- ・システム化範囲・システム構成検討
- ・運用検討WGとの連携(タスクシフト、働き方改革)
- ・部門横断的なシステムの機能概要(ミドルウェア、データ利活用プラットフォーム、患者案内 等)
- ・部門システムに求める要件の定義
- ・保守体制
- ・システム運用体制
- ・調達方法検討

仕様書の検討

- ・非機能要件
(ベンダーに求める役務要件、研修、リハーサル要件等)
- ・診療データ統合に関する要件
- ・データ移行に関する要件
- ・部門横断的なシステムの仕様
- ・仕様書検討における全体的な課題

システム構築

- ・進捗状況の確認
- ・全体的な課題
- ・システム研修計画
- ・リハーサル計画
- ・システム稼働計画

1. 検討会議

- ・情報システムWG 計13回開催
(リーダー・サブリーダー個別協議、システム担当者協議も併せて開催)
- ・導入予定の158システムのうち、仕様書検討に必要なシステムを随時開催

2. 検討概要

- ・統合新病院開院時のシステム整備範囲の抽出と優先順位の考え方に基づき、仕様書(案)を作成し、それを基に部門検討チームで要求定義を実施
- ・仕様書(案)を基に各システム候補業者から概算見積を取得し、費用積算を行い、システム全体の価格と仕様の調整を実施

3. 検討結果の概要報告

- ・目指すべき、全体最適化の達成に必要となるデータ利活用プラットフォームを軸にしたシステムを整理すると共に、全体最適化を図るシステム群(キーソリューション)について、技術、スケジュール、コストの観点から開院時に実現可能な整備範囲をWG内で検討。
- ・高度急性期病院における外来、入院、救急、手術について、運用検討WGの検討内容をふまえ、各々の場面で利用するシステムを整理し、特に必要となる仕組みについて検討を実施。
- ・課題を解決するためのシステム(新規機能)の導入検討
運用との整合を確認する中で、現状及び新病院における課題が抽出され、解決策を実現するためのシステム機能について検討を実施

1. 情報WGの検討状況

4. 運用上必要となるシステムの検討

高度急性期病院における外来、入院、救急、手術について、運用検討WGの検討内容をふまえ、各々の場面で利用するシステムを整理し、特に必要となる仕組みについて検討を実施。

高度急性期病院で必要となる仕組み	
外来	<ul style="list-style-type: none">● 外来患者の予定、進捗をリアルタイムに把握● 外来患者の状況を迅速に共有
入院	<ul style="list-style-type: none">● 入院受入れの際、候補病床を探し、病棟との調整● 病院全体の稼働状況、負荷状況を把握したベッドコントロール
救急	<ul style="list-style-type: none">● 救急受入れから手術、ICU、一般病棟において、患者状況の一元管理
手術	<ul style="list-style-type: none">● 器材のトレーサビリティ(いつ・どこで・誰に器材が使用されたか記録)● 組み立て作業の精度・効率UP(手術回転率の向上)● 緊急手術の際に器材の準備状況を速やかに確認・共有● 器材を効率的に運用するためセット化の内容を見直し
全般	<ul style="list-style-type: none">● 高度急性期病院における各部門との迅速で正確な連絡・情報伝達● 複数回の電話連絡を無くし、短時間で正確な情報の共有 例)ベッドの清掃依頼と清掃業者との連絡、手術終了時の病棟への連絡と病棟内での確認 等

1. 情報WGの検討状況

5. 課題を解決するためのシステム（新機能）

運用との整合を確認する中で、現状及び新病院における課題が抽出され、解決策を実現するためのシステム機能について使用検討を実施。

No.	システム (新規機能)	課題・検討事項	解決策
1	電子端末を利用した 外来患者案内	<ul style="list-style-type: none">● 患者が診察室前、外来ロビー等に滞留する（待ち時間等へのストレス）● 職員が患者の問合せに対応する時間がとられている	<ul style="list-style-type: none">● 全ての患者に電子端末を利用した案内（各種通知、説明等）を実施（患者自身の端末または貸出端末）
2	電子問診	<ul style="list-style-type: none">● 患者が紙で記載したものを電子カルテに手入力する必要がある● 院内の問診入力に時間がかかる	<ul style="list-style-type: none">● 患者がタブレット端末等から問診入力することにより、電子カルテシステムにデータ反映可能● 来院前に問診入力をを行い院内滞在時間を短縮
3	外来モニタリング	<ul style="list-style-type: none">● 最新の患者情報は各システム上のみで参照可能であり、患者の予定、進捗が一元的に把握できない	<ul style="list-style-type: none">● 利活用プラットフォームで患者の予定、進捗を一元管理することにより、他部門での状況も把握可能
4	入院モニタリング (ベッドコントロール)	<ul style="list-style-type: none">● 入院受入れの際、候補病床を探し、病棟との調整が必要● 病院全体の稼働状況、負荷状況を把握したベッドコントロール	<ul style="list-style-type: none">● カレンダー形式でベッド移動のシミュレーション、バスや傷病名からの適切なベッド検索より、病床を効率的に運用可能● リアルタイムに空床情報・スタッフ配置情報の把握により、入院受入れの迅速な判断が可能
5	コール& レスポンス	<ul style="list-style-type: none">● 高度急性期病院における各部門との迅速で正確な連絡が必要● 複数回の電話連絡をなくし短時間で正確な情報の共有が必要	<ul style="list-style-type: none">● 業務の進捗や行動の条件に合わせたリアルタイムな指示や連絡の「自動通知」の仕組みを構築● 通知を受けた各スタッフが次の行動着手までのレスポンスのタイムラグを最小化

2. 運用検討WGの検討状況と継続検討課題

運用検討WGの主な検討事項

外来運用

- ★基本方針 対応時間 開院時の外来機能の整理
- ・来院経路別患者フロー整理(初診、再診、紹介、予約の有無)
- ・再来受付機の設置場所
- ・総合受付(新患・紹介)での業務内容の整理
- ・保険証確認運用の整理、診療申込書の運用検討

救急運用

- ★基本方針 対応時間 開院時の救急機能の整理
- ・来院経路別患者フロー整理(2次、3次、ウォーキン、感染症等)
- ・救急で対応する患者のかげ作成手順、再受診の予約方法
- ・救急搬送患者の検査等事前オーダーの実施
- ・安静・観察対応患者の診察場所、感染症疑い患者の対応
- ・患者誤認対策、救急エリアで使用する輸血の搬送方法

病棟運用

- ★基本方針 対応時間 開院時の病棟機能の整理
- ・入院経路別患者フロー整理・搬送手順整理
- ・各種病棟業務の運用整理(入退院支援、ベッドコントロール、給食、外泊時対応、退院時手続、会計等)、紹介患者の入院前支援のフロー整理

手術運用

- ★基本方針 対応時間 開院時の手術機能の整理
- ・手術前後の運用フロー整理(予定、緊急手術)
- ・緊急手術実施時の麻醉同意取得、外来手術受付への職員配置
- ・手術室における輸血の管理及び運用手順

1. 検討会議

- ・運用検討WG 計8回開催
(リーダー・サブリーダー個別協議、WG前後の個別詳細協議適宜開催)

2. 検討概要

- ・主要4テーマの詳細運用検討・部門協議(計8回実施)

3. 検討結果の概要報告

- ・外来・病棟・手術・救急という部門横断的な運用(テーマ)についてWG内で検討。詳細運用検討を進めるとともに、情報システム、各種課題の検討を実施。継続検討課題は次のとおり
- ①外来 医事課運用、外来処置行為の実施場所に関する整理
電子問診取得方法、患者案内端末に関する検討
- ②救急 救急外来受診後の離院までのフロー
入院決定した患者の搬送・受渡し、下り搬送運用整理
HCUの会計計算・精算実施場所検討
- ③病棟 退院・入院時間、入院当日受付・説明方法
医事課業務内容、給食食事・配茶に関する運用の整理
入退院支援センターの具体的運用の整理
- ④手術 術後リカバリーの実施、入院患者のマーキングの運用
緊急手術時の運用、手術室薬剤関連業務の整理

- ・上記4テーマの詳細検討に加え、各部門の運用計画書の作成・課題を抽出。課題のうち、多職種にかかわる課題等をWG内で共有し、課題解決を図る